

## 水から学ぶ事

横浜市立南戸塚中学校

三年 柳田 亜美来

水は私たちが生きていく上でかせない物だ。洗濯をしたり、トイレの水を流したり、もちろん飲み水としても大切である。水があることに感謝して生きよう、よくそう言われているが、日本に暮らしていて水に困ることはほとんどなく、あまり実感が湧かない。私はそれは実際に体験してみないと分からない事だと思い、一日中、水を飲まないで過ごしてみた。

当日の朝、いつも朝ごはんと一緒にコップ一杯の水を飲むが、その日は何も飲まずに家を出て、部活に向かった。運動をして、水飲み休憩の時間になり、みんなは水を飲んでいいる。私も水を飲みたかったけれど、我慢した。しかし、のどの渇きは限界になり、耐えられず水道の水を飲んだ。数時間ぶりに飲んだ水はとてもおいしくて、

感動した。水に感動する日が来るなんて思いもしなかった。私は普段からあまり水を飲まない。だから、一日くらい簡単に乗り切れると思った。しかし、全然そんなことはなく、半日ももたなかった。

私は当たり前のようにいつでも水が飲める環境にある事はとても恵まれていると感じ、もっと水に対してありがたみをもって生活しなければならぬと、今回の経験から学んだ。

しかし、さっきも言ったように、日本に暮らしている私たちは水に困ることがないので、ありがたみを実感しにくい。その事を感じるためには水についての問題の現状を知る必要があると思った。

水についての問題は世界中で起こっていて、これは水資源が不足している地域では死活問題となる。

ではなぜ水が不足してしまうのか。いくつか原因はあるが、主な原因として上げられるのは二つだ。

一つ目は、地球の気候の変動だ。最近の異常気象や降水量の変動により、使用可能な水の量が左右され、とても不安定な状態となる。洪水が起き、水が必要以上に増えたり、干ばつによって必要な分の水を得られなかった

りして、水を効率よく使えていない。水が必要なときに必要な量がなければ、それは水不足としてとらえられてしまう。気候変動が水不足の原因となっている事は間違いない。

二つ目は産業の発展だ。水は工業や農業にも利用されている。そのような産業が発展し活発になるほど、水の使用量が増え、水がどんどん増えてしまう。また、工場を建てるために森林伐採が進み、水を蓄える働きをする森が減少するなどの水源破壊も起こっている。水の使用量は増えているのに、それに反比例するように水源は減ってきている。

今あげた水不足の原因となる気候変動と産業の発展。どちらも日本のような先進国がこれらの問題を引き起こす中心となっている気がする。気候変動は地球温暖化が大きな原因になる。地球温暖化は二酸化炭素が排出される事によって起こる。二酸化炭素排出量が多い国は先進国に多い。また、産業の発展も先進国を中心として起こってきた。なので、やはり水不足の根本的な原因をつくったのは先進国になる。しかし、水不足の影響を大きく受けている所はアフリカやアジアの小さな貧しい国々、

つまり発展途上国だ。水不足の原因に直接関係のない人々が被害を受けているのだ。不衛生で汚れた水を飲み水として使用しなければならなかったりと生活に必要な水を十分に確保できていない人々が世界中にいる。私たちはその現状をよく知らないまま、水が無限にあるかのように、じゃぶじゃぶと、必要のない量を無駄に使ってしまっている。

私たちはもっと当たり前に水が使える環境に感謝して過ごさなければならぬ。これは水だけの話ではなく、食べ物や安全になに不自由なく暮らせている事に対してもだ。

私も当たり前が当たり前でない事を忘れずに、日々感謝して生きていこうと思う。